

武蔵村山市立小・中学校

学校図書館だより

— 本で育つ 本でつなぐ —

発行 武蔵村山市教育委員会

編集 武蔵村山市学校図書館活用推進プロジェクト学校図書館だより編集委員会



読書を通して 心を耕す

武蔵村山市教育委員会

教育長 持田 浩志



様々な教育

課題が、連日報
道されていま
す。中でも、い

じめの問題は、
絶対には許してはならない、大きな課
題であると捉えております。

課題が発生すると、その直近の背
景のみに視点を奪われがちですが、
それでは、対処療法的、短期的な対
応にしかありません。

「言葉はこころ、こころはまなざし」
言葉を学び、心を耕すことができ
る読書のすばらしさは、これらの教
育課題にも、直接、つながってくる
のではないのでしょうか。

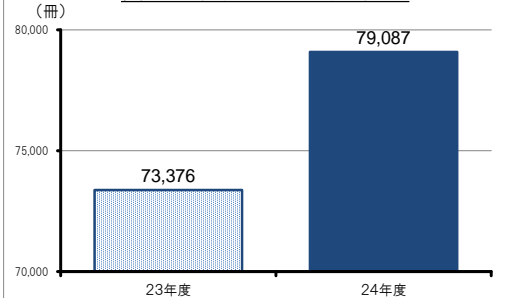
親と子が、教師と子供たちが、あ
るいは、子供たち同士と一緒に本を
読み、心を耕していく。そのような
ことが、様々な教育課題の解決に、
一番大切なことなのではないでしょ
うか。

学校図書館の利活用 充実に向けた取組

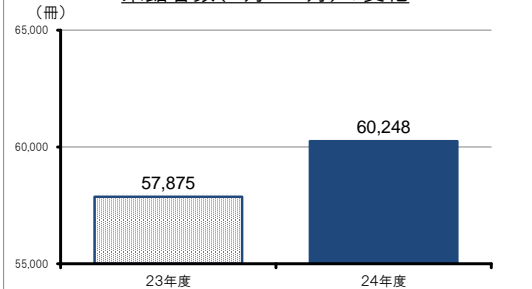
子供たちに「確かな学力」を身に
付けさせるために、その基盤となる
「言語に関する能力」を高めていく
ことが大切です。本市教育委員会では、児童・生徒の主体的・意欲的な
学習活動や読書活動を促進するため
に、市内全小・中学校に学校司書を
配置し、学校図書館の充実を図って
います。平成22年度から平成23年度
にかけて、各学校における学校図書
館の貸出冊数が大幅に増加し、平成
21年度から平成23年度にかけて、本
市小・中学生の未読者
率（1か月間に1冊も
本を読まなかった児
童・生徒の割合）が減
少したことは、これま
での「学校図書館だよ
り」でも御案内してき
たとおります。

今年度から、学校司
書の配置を週4日に
増やしましたが、その
成果が貸出冊数や来

貸出冊数(4月～7月)の変化



来館者数(4月～7月)の変化



館者数の増加として表れています
(左グラフ参照)。
4ページに紹介いたしました
今年度から立ち上げました「学校図
書館活用推進協議会」において、全
小・中学校の学校図書館担当教員及
び学校司書が集まり、具体的な利活
用に関する情報交換等を行っていま
す。
また、平成25年度は、市内全小・
中学校で、小中連携の視点から、「言
語能力の向上」を目指して校内研究
を推進します。各教科等の中で、学
校図書館の利活用を含め、子供たち
の「確かな学力」が身に付いていく
よう、充実を図ってまいります。

学校図書館環境の充実と、読書活動の日常化

第十小学校 司書教諭

近藤 豊

学校司書

木村 清子

一、本校の読書活動の位置付け

本校では、平成23・24・25年度東京都教育委員会「言語能力向上推進指定校」として、読書活動を重要な視点と捉え、教育活動を展開しています。学校図書館の計画的な活用を図るとともに、毎週一回の朝読書や年間二回の読書旬間などを通じて、低学年は一人五十冊、四年生は四百ページ、五年生は五百ページ、六年生は六百ページを目標とし、児童の主体的・意欲的な読書活動を充実させるよう努めています。

二、読書活動の充実を図るために

今年度は、読書環境の充実を図る中で、次のような実践を行いました。

(一) 学校図書館前のディスプレイ

イコーナーの見直し

平成23年度まで、学校図書館前のディスプレイコーナーに新着本のカバーを並べ、図書の紹介をしていました。しかし、陳列物が多く、内部の照明も十分に届かない状態でした。



《図書室前ディスプレイと図書委員会児童》

そこで、ディスプレイコーナーを整理し、季節や行事に合わせた図書の紹介をできるようにしました。

学校図書館の入口が明るい雰囲気になり、紹介されている図書に興味をもつ児童も増えてきています。

(二) 教員・保護者の協力による

読書旬間

年2回の読書旬間では、学年の実態に応じて、教育ボランティアや保護者の方の協力の下、朝の読み聞かせを実施しています。

図書委員会の児童も、低学年の教室での紙芝居などの読み聞かせや放送での読み聞かせに自主的に取り組んでいます。

今年度は秋の読書旬間に合わせ、全教員が「本の紹介カード」により、

児童に図書の紹介をしました。学校図書館入り口に掲示したところ、児童がカードで紹介されている図書について問い合わせるような姿も見られました。

《教員の「本の紹介カード」を見る児童》

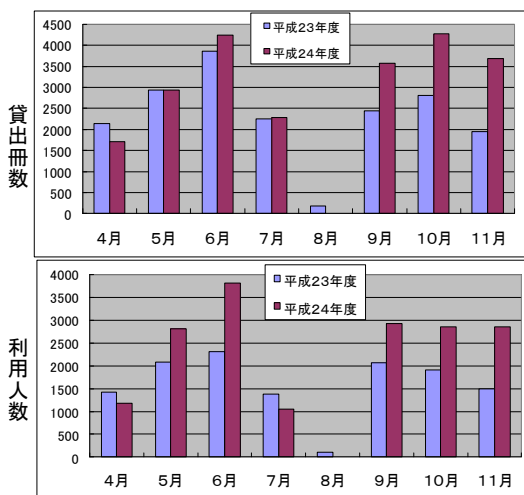


(三) 書架の整備

図書の整理とともに、「図書館マップ」の刷新を行いました。また、書架の図書分類の表示を、イラスト入りの大きなもので、児童の見やすいものに変更しました。図書委員会の児童によるラベル貼り等の作業も含め、より分かりやすい図書館環境の整備を進めています。

三、読書活動への児童の関心の変化
読書量の多い児童や学級の全校朝会での表彰、読書環境の整備の効果

により、児童の読書量が確実に増加しています(24年度8月は校内設備工事のため休館)。



四、今後の展望

読書環境を整える中で、児童の読書への興味・関心が確実に向上していると感じられます。

教科等の支援として、市立図書館からの計画的な団体貸出を行っています。学級担任と学校司書との連携、協力体制により、この制度を有効活用しています。

今後も児童の主体的な読書活動や読書の日常化が図れるよう、使いやすい学校図書館の整備、資料の充実を図っていきます。

司書教諭・学校司書と 図書委員との連携

第一中学校司書教諭

齊藤美由紀

学校司書

栗原千代子

一、司書教諭と学校司書の連携

学校司書が配置されたことにより、学校図書館担当教員との引き継ぎもスムーズに行われ、生徒の読書活動への支援が円滑にできました。学校図書館に学校司書がいることにより、効果を発揮することができ、4月から、落ち着いて朝読書ができるようにするとともに、学級文庫の配架、図書委員会の活動など、学校司書と学校図書館担当教員が話し合いながら進めています。

二、年間の活動内容

(一) 朝読書・学級図書

本年度は、各学級に10冊ずつの本を配り、一週ごとに隣の学級に交換する制度を取り入れました。学級に配る本は、小説に限らず、クイズや歴史書などを織り交ぜました。興味や関心は小説だけに限りませんので、様々なジャンルを取り入れていきたいと思っています。

学級図書の管理は図書委員会の生

徒が行っています。配架冊数を生徒の実態に応じて増やすなど、その都度、学校司書と連絡を取り合って実践しています。



(二) 教室フロアへの出張図書

校舎建て替えに伴い、図書室が特別教室棟となり、生徒が主に生活する教室から少し遠くなったため、ワゴンに新刊を積み込んで出張貸し出しを行っています。図書委員と共に教室前で貸し出しを行っている成果により、最近では、図書室への来館人数も増えてきました。また、授業などでの活用も増えていきます。

(三) 図書委員会の活動

図書委員会発行の新聞「ライブラリーニュース」は、全生徒に配布さ

れます。中でも「青春と読書」と題する、教員へのインタビュー記事は大変人気があり、話題となっています。自分たちでインタビューを考えたり、記事をまとめたたりする作業は時間がかかり、大変ですが、読者から良い反響が見えると、次号へのプランが湧いてくるようです。編集メンバーも3年生から2年生へと引き継ぎ、伝統として新聞の発行ができたことを、生徒は誇りに思っています。



活発になった図書室利用

第一小学校司書教諭

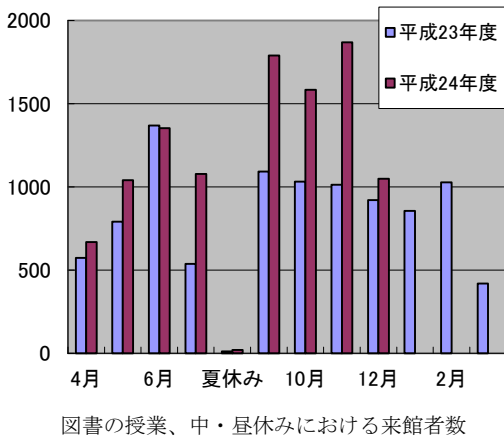
田村恵美子

学校司書と協力し、図書室の書籍

の整理を行いました。表示も新しくなり、明るい図書室になりました。

今までは、図書委員が図書室にいる昼休みにしか貸出し・返却ができなかったのですが、この時間に学校司書がいることで、中休みにもできるようにになりました。その結果、図書室に来室する児童数や貸出冊数は、年々増加しています。

また、学級担任と学校司書との連絡票の活用により、図書の時間や調べ学習の時間に、これまで以上に積極的に図書室を利用するようになりました。2年生の国語の授業では、自分たちなりの見出しを作って棚に貼るなど、読書以外でも様々な図書室を活用する機会が増えていきます。



読書環境の充実

第四中学校 司書教諭

儘田 麻希

本校は、「七夕会」や「ハロウィン会」等、図書委員会が主体的にイベントを企画・運営し、生徒が、図書室が親しみやすい場所であると感じられるようにしています。

司書教諭としては、年度当初に全学級の授業を図書室で行うことを計画しました。その中で、ブックトークや読み聞かせを通して、本に親しむ姿勢を養うとともに、図書室の利用の仕方を身に付けています。また、学習情報センターとしての役割も教え、調べ学習ではインターネットに頼らず、書籍を活用することの重要性も指導しています。

今年度は、言語活動の充実を目指し、話し合いの模範を示し、自ら進んで発言できるようにする指導の場を、国語だけでなく理科や英語など、他教科でも図書室の資料を使って学習を行っています。その結果、学習が「調べて書く」「考える」「感じる」などに広がり、学習内容が充実しました。司書教諭と学校司書は、生徒のよきパートナーとなっています。

村山学園の図書室

小中一貫校村山学園

小学部教諭

益満 由紀子

中学部司書教諭

七五三木香織

村山学園には、低学年図書室（1年生～4年生）、中学年図書室（5年生～7年生）、高学年図書室（8年生～9年生）の、三つの図書室があります。今後、一層蔵書数を増やし、三つの図書館をより効果的に活用できるように計画しています。

小学部・中学部ともに、学校司書と児童・生徒の図書委員により、貸出しや本の紹介を行うことにより、図書室を利用する児童・生徒数や図書の出し冊数が、年々増加しています。

また、小学部においては、教員、保護者、読み聞かせサークル「わらべ」による読み聞かせを継続して行ってきたことを踏まえ、今年度は図書委員が読み聞かせの計画を立て実践をしています。

そして低学年図書室は、10人ほどの図書ボランティアが、学校司書と共に、図書室を季節に合わせた飾りで飾っています。

中学年図書室には、購入して欲しい本を書

くノート

があり、

生徒から

のリクエ

ストを募

集してい

ます。リ

クエスト

の中から、

学校司書が

生徒の発達

の段階等を

考慮して選

書しています。

指導する側

としても、

今の生徒が

読む本の傾

向をとらえる

ことができ、

選書する際

や、読書活

動の際にと

ても役に立

ちます。

また、生徒

からのリク

エストだけ

でなく、学

校司書が中

学生に読んで

欲しい本や

教科の学習

に関する本

をリストア

ップし、「お

すすめコー

ナー」に並

べています。

今年度は、

主に古典と

詩に関する

コーナーを

設置しました。

普段は古典

や詩に興味

のない生徒

も、「授業で

やった」「

この作者知

ってる」と

言って、借

りて行く姿

が見られま

した。来年

度も、「教科

おすすめる

コーナー」



学校図書館

活用推進協議会の目的

今年度から

3回、教育委員

会の事業として、

学校図書館活用

推進協議会を設

置しています。

学校図書館利用

を促進し、子供

たちが進んで読

書をしようとする

意欲や態度を育む

ことを目的として

います。

これを受けて、

学校司書と学校図

書館担当教員が

連携を深めると

ともに、学校間

の情報交換を通

して、各

学校の取組の一

層の充実を図

つていきます。

(編集部)

【編集委員】

教育センター研修室長 小川 隆志

第三小学校 学校司書 長谷川雅美

第七小学校 学校司書 稲葉 智子

雷塚小学校 学校司書 木村 知佐

第一中学校 学校司書 栗原千代子

第三中学校 学校司書 小久保弘美

